



マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページにバックナンバー掲載中

マルト商事

検索

お客様の笑顔のために...

チャレンジ

9月号 SEP 2019

<http://www.maruto-shoji.co.jp>

北海道産玉葱入荷開始

元年産の北海道玉葱の入荷が始まりました。今期は府県産時期、玉葱の品質で苦勞をしました。各産地サイズはあるのですが、収穫時期に雨に当たっていることが多く、その後の乾燥工程等で不具合が出ていたように思います。しっかりと乾燥ができていない産地は内部の腐れが発生していたり、外皮に多くの土が付着していたりと、平年あまり見られないような原料玉葱の入荷が多くありました。

今期北海道産の状況は比較的良好であると考えています。しかしながら早い時期のものには若干問題もふくまれており、直近の入荷のものには乾腐病が入っていました。この時期北海道産極早生はその傾向があります。使用に際しては注意していかなければいけません。

上記状況の中、再度北海道産地状況を確認しました。全道的には凡そ平年作より上の収穫量とのことです。現在のところ品質評価が良いのは岩見沢地区。一方例年安定して良質な玉葱を出荷している北見地区についてはサイズ・品位ともにバラツキがあるとの情報を頂いております。

まだ、スタートしたばかりの北海道産であり、今後のオホーツク222からが本番となるので、まだまだ分かりませんが、都度正確な情報をとって、より良い品質のものが入荷するように仕入を進めて参ります。

弊社では9月1日より順次剥き玉葱商品の原料産地切り替えを実施しております。今期も北海道産ご愛顧を賜りますようお願い致します。



第38期スタート

マルト商事第38期がスタート致しました。令和元年のスタートとなる期です。素晴らしい期になるように従業員一同頑張っております。

マルト商事の38期は大きなイベントがある期となります。10月の消費増税、そして2020年の東京オリンピック。我々の業界にとって非常に大きな環境の変化がある期となるかと思っております。

マルト商事では数年前より、食品安全への取り組みを進めて参りました。従来、我々剥き玉葱加工、野菜の一次加工業種は保健所の管轄外の事業であり、衛生管理等は義務付けられておりません。しかしながら、オリンピックを控え、我々の業務も食品業界のバリューチェーンの一部を担っており、食品安全への取り組みは野菜一次加工業の取り組むべき大きな課題であると捉えて順次改善を図って参りました。

5年前の新工場建設から現在の取り組みを進め、昨期には食品安全の規格であるJFS-A規格の認証取得を致しました。また、7月には品質管理部を立ち上げました。まだまだ歩き始めたばかりの道ですが、今後は更に重要度が増していく食品安全への取り組みを会社としてしっかり進めて参ります。

マルト商事38期大きなテーマとして「品質のマルト商事」を掲げました。品質と一言でいうと簡単ですが、その中身は果てがなく奥が深いものと考えています。一朝一夕にできる取り組みではありません。

マルト商事は商品だけではなく、あらゆる面での品質と価値を追求して、お客様のHAPPYを創造し、社会に貢献し、我々もHAPPYになるということを目指します。

今期も皆様にご愛顧いただけるように従業員一同努めて参ります。宜しくお願い致します。

株式会社マルト商事

代表取締役 戸澤 周一

“食”の分野で役立つマーケティング情報

じつは東京新聞を購読しています。読んでいる人に会ったことはありませんが、東京新聞は面白い視点の内容や他紙が取り上げないような記事が多くて楽しめます。今回はそんな東京新聞で読んだ記事から。余談ですが、東京新聞には「こちら特報部」というコーナーがあります。東京新聞の記者が独自の視点で深く掘り下げている、他のマスコミ関係の人たちがこっそり参考にしていると聞いたことがありますので、興味がある方はぜひ。

話がそれましたが、これまでの産業廃棄物の処理業のイメージを覆し、国内外から年間なんと三万人が見学に訪れる会社がマルト商事さんと同じ三芳町にあるそうです。かつては地域の住民から撤退を迫られて廃業の危機までありました。そこから環境を一番に考える企業へと大変身したのが石坂産業という会社です。創業の父親から会社を引き継いだ石坂典子社長は住民の理解を得て、地域に愛される企業に生まれ変わろうと改革を進めていったそうです。

焼却処分から分別によるごみ資源化への転換、屋内型プラントの建設、地域の住民がいつでも作業工程が見られるようにと見学通路の設置。そしてなかでも共感を特に得たのが、里山保全活動だそうです。かつての里山を復活させようと、石坂社長をはじめ社員らのごみを拾うと、近隣住民も参加するようになったそうです。なんと今ではホテルが生息するまでに。さらに会社の敷地内には、体験型農場や地産地消のカフェなどもあり、自然と共生するライフスタイルを提案しています。こうしてかつては、住民から疎まれていた石坂産業は国内外からさまざまな人々が環境学習に訪れる企業へと生まれ変わりました。この夏、板橋区の劇団がこの石坂産業の物語をモデルにした舞台を上演するそうです。

アメリカの主要企業の経営者の団体でビジネス・ラウンドテーブルというものがあります。この団体が最近「株主第一主義」を見直して、従業員や地域社会などの利益を尊重した事業運営に取り組むと宣言したという記事を読みました、(こちらは日本経済新聞です)。これまではビジネス・ラウンドテーブルははっきりと企業は主に株主のために存在すると言いつけてきましたが、時代の変化がこれまでの価値観を変えているようです。これからは株主ではなく、企業はより従業員や地域社会へ目を向けて行動すべきだと。2000年前後に生まれたミレニアル世代の存在も、この企業の行動の原則の見直しにつながったとも言われています。ミレニアル世代の6割が、会社の主な目的を利益追求より社会貢献と考えていると指摘されているからです。

三芳町にある石坂産業の物語とアメリカでの企業の在り方への意識の変化は、どこかつながっているように思えます。人手不足が話題にならない日はありませんが、働く人に選んでもらえる企業になるヒントがここにあるかもしれません。



木下康司 きのしたこうじ
1966年生まれ。キノ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役。
デザインとコミュニケーションの力を使い商品やサービスの価値を高めてブランド力を作り出すことに取り組んでいる。
<http://www.kino-company.com>

9月 玉葱商品産地情報

産地		状況
国産黄玉葱	富山 北海道	貯蔵品での対応となります。品質注意して加工します
輸入黄玉葱	NZ	ほぼ終了
中国剥き玉葱	甘肅省	品質は良好 安定しています
国産赤玉葱	北海道	9月中旬以降で北海道へ切り替えます
輸入赤玉葱	NZ	品位は例年に比べると弱いです。加工に注意します

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。
お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315